岡谷市民新聞

自ら撮影の「原発20キロ圏」映像などもとに講演

2日に毛利正道さん

すわこ文化村

すわこ文化村の毛利正道代表理事はことし2月、東京電力福島第一原発事故による放射性物質漏出で、立ち入り禁止（当時）となっていた南相馬市の「20キロ圏」境界を訪ね、自身で撮影した動画などをもとに、「映像で見るフクシマの現実と明日の人類」と題した講演を、2日（日）午後1時半から岡谷市長地権現町の諏訪湖ハイツで開く。

20キロ圏の写真を手に来場を呼び掛ける毛利さん

7月に諏訪市で開いた講演が好評だったことを受け、すわこ文化村の「飛び入り企画」として開催。南相馬市の国道6号を立ち入り禁止区域の「原発20キロ圏」境界まで入り、撮影した福島の状況や、ことし3月に稼働せず廃炉となったフィリピンのバターン半島にある原発内部に入り、複雑に配管や弁が入り組んだ様子などを80分に編集し、映像を見ながら毛利さんが大震災と原発事故が重なった今回の広範囲で多重な被害や、原発と核兵器の関連、放射能の影響による子どもらの未来などについて話す。

毛利さんは「20キロ圏内の捜索が大震災から半日で打ち切られ、千人の命が奪われたとされる。規制10自治体で少なくとも600人が災害関連死したと伝えられており、合わせて1600人が地震津波に原発事故が重なったことで亡くなった」と述べ、「フィリピンの原発内部の映像を見れば、原発が地震や津波に耐えられないことは一目瞭然（りょうぜん）。政府が聞かなかった再稼働反対の声は国民主権の怒りの声であり、それを国会に反映させる努力をしていきたい」と話し、賛同する人の来場を呼び掛けている。

参加費は300円。参加を希望する人は、できれば事前に毛利さん（電090・4096・7065）まで連絡してほしいと。